



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

1月号—No.356

2025.1.1

(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【トマトレッド(Tomato Red)】完熟したトマトのような鮮やかな赤。

この鮮やかな赤色はトマトに豊富に含まれる色素成分のリコピンによる。南米原産のトマトが大航海時代にヨーロッパに伝わり、17世紀半ばに観賞用として日本に伝来。食用として広まったのは大正から昭和初期にかけて。ちなみにトマトレッドという英語の色名が生まれたのは19世紀末で、以来、赤を代表する色として定着した。

●目次 / contents

地域創造理事長 新年のご挨拶.....2

今月のニュース.....4

第25回「地域伝統芸能まつり」
令和6年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」受賞施設決定

財団からのお知らせ.....8

「特別寄稿 ビューポイント view point」バックナンバー紹介/令和5・6年度「公共ホール創造ネットワークモデル事業」終了報告/令和7年度「リージョナルシアター事業」全体研修会報告/雑誌『地域創造』第50号発行/地域創造発行物のご案内

今月の情報.....11

地域通信 / アーツセンター情報

今月のレポート.....16

青森県八戸市 八戸市美術館「風のなかを飛ぶ種子 青森の教育版画」

発行元：一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル 9F
Tel. 03-5573-4093 Fax. 03-5573-4060
URL: <https://www.jafra.or.jp/>

～新年のご挨拶～

一般財団法人地域創造理事長 河内 隆

明けましておめでとうございます。当財団の事業に日頃よりご支援・ご協力いただいている皆様に、年頭のご挨拶を申し上げます。

地域創造は、昨年9月末に設立30周年を迎えました。地域のご理解・ご協力により長年にわたり様々な事業に取り組むことができましたのも、ひとえに知事、市区町村長の皆様、ホール・劇場・美術館等公立文化施設の皆様、アーティストの皆様をはじめとする多くの関係者のご尽力の賜物であり、改めて心から感謝申し上げます。

人口減少、超高齢化の中で日本の地域社会は幾多の課題に直面しております。また、地域の文化・芸術を巡る環境も大きく変化しております。全国的にも誇れる立派な活動を自主的に展開している施設もありますが、多くの施設は厳しい地方財政の下、予算確保も難しく、人材の流出・慢性的な不足に加え、大規模改修等の時期にあたるなど、関係者の悩みは尽きないのが実情です。

しかしながら、その一方で、コロナ禍後の成熟社会の中で、文化・芸術の力が地域を豊かにする鍵となるとの確信が深まりました。さらには福祉等における異分野での文化・芸術活動の新たな展開への期待も高まっております。

元気な地域の創造・再生には、各地域の異なるニーズに柔軟に対応し、文化・芸術の力を生かすことが引き続き重要であり、そのためには公立文化施設の質の高い活動が求められます。そこで、設立30周年を迎えたことを契機に、現場や有識者の貴重な御意見等を踏まえ、令和7年度から新たな事業等を実施することといたしました。具体的に申し上げます。

まず経験豊富なコーディネーターの派遣等により公共ホール等の企画制作力向上を図る「公共ホール等活性化支援事業」については、

- ①包摂性のある地域社会の構築に資するよう、障がい者を対象とするアウトリーチを行う事業
- ②単独では事業実施が難しい公共ホールが、複数連携してアウトリーチ・公演を行う事業
- ③地域において持続的にアウトリーチを行えるよう、地域のアーティストに対する研修事業

を新たに実施して参ります。

また、地方公共団体が自ら主体的に企画し制作実施する事業に対し助成する「地域の文化・芸術活動助成事業」につきましては、地域における社会問題の深刻化・顕在化を踏まえ、アウトリーチ、ワークショップ等を活用して地域の課題に向き合い解決に向けて取り組む活動を、新たな助成対象にして参ります。

こうした新たな事業につきましては、地域や専門家の皆様と協力しながら鋭意ブラッシュアップし、育てて参りたいと考えております。

公立文化施設の現状の悩みはそれぞれ深刻ですが、嘆くだけでは事態は変わりません。

今年の干支は、巳(へび)。巳年は、蛇が脱皮を繰り返して成長する様子から「再生と変化」を意味すると言われます。これまでやってきたことにとどまることなく、思い切って新しい事業にもチャレンジしていただくようお願いいたします。ホール職員の企画制作力向上のためには、ステージラボ等体験型研修事業への参加も有益です。大いに刺激を受け、同じ問題意識を持つ仲間を見つけていただけると幸いです。

地方公共団体の共同組織として専門的人材ネットワークとノウハウを有する「地域創造」の役割は引き続き重要であると認識しており、財団設立の理念である「自ら考え自ら行う地域づくり」「創造性豊かな地域づくり」に積極的に貢献して参ります。

これからも、皆様とともに築き上げてきたネットワークを活かしながら、ニーズを丁寧に汲み取り、地方公共団体の自主的な取り組みや事業の展開を可能な限り支援してまいります。

皆様方のご支援・ご協力の程を、引き続き宜しくお願い申し上げます。

2025年1月

2025年1月～3月 地域創造事業スケジュール

当財団では年度末にかけて、全国各地でさまざまな事業を展開しております。

1月

- 公立美術館地域展開型研修事業(美術館出前(オーダーメイド)型ゼミ)
田川市美術館(福岡県田川市)/1月24日
- リージョナルシアター事業
三重県四日市市2回目派遣(四日市市文化会館)/1月17日～20日
熊本県宇土市2回目派遣(宇土市民会館)/1月21日～24日
愛知県知多市2回目派遣(知多市勤労文化会館)/1月31日～2月3日
- 公共ホール音楽活性化事業
熊本県荒尾市(荒尾総合文化センター)/1月30日～2月1日
- 公共ホール邦楽活性化事業
福島県白河市(白河市東文化センター)/1月23日～25日
兵庫県養父市(養父市立おおやホール)/1月23日～25日
- 公共ホール現代ダンス活性化事業
鹿児島県与論町Bプログラム1回目派遣(与論町砂美地来館)/1月17日～19日
- 令和6年度地域創造大賞(総務大臣賞)表彰式(東京都・グランドアーク半蔵門)/1月17日

2月

- ステージラボ堺セッション(フェニーチェ堺)/2月4日～7日
- 公立美術館地域展開型研修事業(美術館出前(オーダーメイド)型ゼミ)
鹿児島県立美術館(鹿児島県鹿児島市)/2月5日
千葉県立美術館(千葉県千葉市)/調整中
- リージョナルシアター事業
鳥取県2回目派遣(鳥取県立倉吉未来中心)/2月20日～23日
香川県丸亀市1回目派遣(丸亀市綾歌総合文化会館)/2月27日～3月2日
- 公共ホール音楽活性化事業
静岡県袋井市(袋井市月見の里学遊館)/2月6日～8日
- 公共ホール邦楽活性化事業
熊本県益城町(益城町文化会館)/2月14日～16日
- 公共ホール現代ダンス活性化事業
鹿児島県与論町Bプログラム2回目派遣(与論町砂美地来館)/2月19日～24日
熊本県天草市Cプログラム(天草市民センター)/2月20日～23日

3月

- リージョナルシアター事業
香川県丸亀市2回目派遣(丸亀市綾歌総合文化会館)/3月13日～16日
- 公共ホール邦楽活性化事業
宮崎県都城市(都城市総合文化ホール)/3月7日～9日
- 公共ホール現代ダンス活性化事業
山形県大石田町Cプログラム(大石田町町民交流センター 虹のプラザ)/3月20日～23日
- 第25回地域伝統芸能まつり(東京都・NHKホール)/3月2日

●「地域伝統芸能まつり」

25回目のテーマは「源～そして、未来へ。～」

第25回
地域伝統芸能まつり



令和5年度 第24回地域伝統芸能まつり オープニングの様子

地域創造では、地域の重要な資源である地域伝統芸能の保存・継承・活用を支援しています。なかでも、日本各地域の伝統芸能と古典芸能が一堂に会し、個性豊かなさまざまな芸能が歴史的・地域的な解説とともに披露される「地域伝統芸能まつり」は、日本の芸能のすばらしさや地域の伝統の重みを再認識する機会として高く評価されています。

平成12年度から開催されてきたこのまつりでは、これまで、全国47都道府県から206演目が披露されました。第25回となる今年のテーマは、「源～そして、未来へ。～」。テーマに沿った、日本各地域の伝統芸能7演目と古典芸能1演目をご紹介します。

●「地域伝統芸能まつり」に関する問い合わせ
総務部 高野
Tel. 03-5573-4056

◎出演予定の地域伝統芸能・古典芸能(出演順)

行祭事名または演目	地域または出演者	都道府県単位でみた場合の出演回数
●御嶽神楽	豊後大野市(大分県)	4回目(10年ぶり)
●新保広大寺節	十日町市(新潟県)	8回目(7年ぶり)
●天津司舞	甲府市(山梨県)	3回目(11年ぶり)
●御陣乗太鼓	輪島市(石川県)	6回目(9年ぶり)
●半能「高砂」	梅若紀彰、御厨誠吾 ほか	—
●勝山左義長ばやし	勝山市(福井県)	4回目(10年ぶり)
●宇原獅子舞	宍粟市(兵庫県)	5回目(7年ぶり)
●阿波おどり	徳島市(徳島県)	3回目(11年ぶり)

[日時] 2025年3月2日(日) 午後2時30分開演
[会場] NHKホール(東京都渋谷区神南2-2-1)
[入場] 無料(事前申込制)
[主催] 地域伝統芸能まつり実行委員会、(一財)地域創造
[後援] 総務省、文化庁、観光庁、NHK
[協力] 名鉄観光サービス(株)
◎応募方法 インターネットのみ(パソコン、携帯電話等)
下記募集サイトからご応募ください。
<https://www.nhk-p.co.jp/chigeisai2025>
応募締切: 2025年1月26日(日) 午後11時59分

◎お問い合わせ ハローダイヤル
Tel. 050-5541-8600(全日9:00~20:00)
*同一メールアドレスでの重複申し込みはできません。また、同一電話番号で複数お申込みいただいた場合、1件として取り扱います。
*ご応募いただいた方には、受付確認メールをお送りいたします。
*入力内容に不備があった場合は、無効となりますのでご注意ください。
*応募多数の場合は抽選となります。当落結果は、2月上旬頃に申込者全員にメールにて通知いたします。
*当選者には、座席指定券を公演日の約1週間前を目途に発送いたします。
*ご来場は申込時に登録された方に限らせていただきます。それ以外の方へのチケットの譲渡はお断りいたします。
*ご応募いただいたお客様の個人情報は、本フェスティバルの抽選、当落告知および個人を特定しない統計資料の作成の目的で使用させていただきます。お客様の事前の承諾なく個人情報を業務委託先以外の第三者に開示、漏洩いたしません。
*荒天などの影響により公演を中止する場合があります。あらかじめご了承ください。最新の開催情報は、地域伝統芸能まつりのホームページなどお知らせいたします。
*発熱などの体調に不安がある方は、ご来場をお控えいただくようお願いいたします。
*ご来場時は手洗いや咳エチケットにご協力ください。

▼— 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

●第25回地域伝統芸能まつり プログラム紹介 *演目は変更される場合もありますのでご了承ください。

おんだけかぐら 御嶽神楽(大分県豊後大野市)



御嶽神楽は、室町時代に創始されたと伝わっています。江戸時代後期、廃絶の危機を迎えましたが、当時の御嶽神社宮司加藤筑後守長古が新たな神楽を生み出し、これが基となり、幕末から明治にかけて今の御嶽神楽が形成されたと考えられています。戦後、過疎化により保存継承が困難な状況となりましたが、清川村(現豊後大野市清川町)あげての保存運動により息を吹き返しました。現在では、古事記を参考にした神話を主題とする演目を中心に33番にのぼる演目を確実に伝え、大分県南部を中心に伝承される同種神楽の代表的なものとなっています。

しんぼこうだいじぶし 新保広大寺節(新潟県十日町市)



新保広大寺節は、日本民謡のルーツといわれています。越後賢女(ごぜ)たちが唄い広め、江戸時代の五大流行唄の筆頭ともいわれています。東北、北海道では、「津軽じょんがら節」、「道南口説(くどぎ)」などに流れ継がれ、関東方面では「木崎音頭」、「八木節」へと変じていったといわれています。また、西へ向かっては、中部地方の民謡「古代神」の元唄となり、全国各地の「口説」の源流となっています。現在では、新保広大寺節保存会により唄と踊りが伝承されており、地元の下条中学校では、正課の授業に取り入れ、全校生徒が、新保広大寺節を身に付けて卒業しています。

てんつしまい 天津司舞(山梨県甲府市)



天津司舞は、甲府市小瀬町に伝わる人形による舞です。地元では「デツクサン」とも呼んできました。日本最古の人形芝居とも評され、国の重要無形民俗文化財に指定されています。また、人形による田楽は、天津司舞が現存する唯一のものです。舞は、船々が湖の上で舞う様子を再現したものと伝えられてきました。御船囃と呼ばれる円形の幕内で、笛と太鼓の囃子に合わせ、からくりを持つ御編木様、御太鼓様、御笛様、御鼓様、御鹿島様、御姫様、鬼様の9体の人形(御神体)が、素朴に、優雅に舞います。

こじんじょだいこ 御陣乗太鼓(石川県輪島市)



御陣乗太鼓は、輪島塗、朝市などで有名な輪島市街地から13kmほど東にある海沿いの名舟町が発祥の地です。太鼓のリズムは、始めはゆっくり、次いでやや早く、最後は最も早く打ち切ります。すなわち、序・破・急の三段で打ち、これを何回も繰り返します。その間、打ち手は自由な形でミエを切りますが、面に応じた身振り、身のこなしなど個性的な芸を入れます。各地の太鼓に比べ、リズム所作等がかもしだす異様な雰囲気には一種独特な迫力があります。また、御陣乗太鼓は打ち手だけのものではなく、名舟町全体のものであることもこの太鼓の特徴です。

たかまご 半能『高砂』 [出演]梅若紀彰、御厨誠吾 ほか



高砂の浦(兵庫県高砂市)を訪れた阿蘇(熊本県阿蘇市)の宮の神主の前に、高砂と住吉(大阪市)の神が老夫婦の姿で現れ、高砂と住吉の松が遠く離れていても一つであるという「相生の松」の謂れや、和歌の道が栄えていることは天下泰平の象徴であると語り、神主を住吉へと船出させます。やがて住吉へと着いた神主の前に住吉明神が現れ、泰平の世を祝福し颯爽と舞を舞います。婚礼の席でお馴染みの「高砂や」の謡も謡われる、能の大成者・世阿弥の代表作の一つです。今回は後半の住吉明神の舞を中心とした構成でご覧いただけます。

かつやまさきぎちろう 勝山左義長ばやし(福井県勝山市)



小正月の伝統行事の1つが左義長(どんど焼)です。全国的には失われつつありますが、勝山市の左義長は300年以上の歴史を誇り、江戸期から町民が無礼講として自由にふるまえる楽しみと、春を迎える喜びを様々な催しで表現しています。その中で、市街地における12の櫓で演じられる勝山左義長ばやしは、三味線、しの笛、鉦で演奏される明るいお座敷唄に合わせて、浮かれる様に打ち込む「浮き太鼓」が特徴です。そして色とりどりの長襦袢を着用し、太鼓に一人腰かけて音を抑え、笑顔で太鼓を打つこの芸能は全国で勝山左義長だけのものです。

うばらしまい 宇原獅子舞(兵庫県宍粟市)



宇原獅子舞は、宍粟市の宇原において播磨伝播により継承されてきた毛獅子で、例年、宇原の天神様と宇原岩田神社に奉納しています。低い姿勢で生きたように舞うのが特徴で、獅子の毛は馬の鬣(たてがみ)を使用しています。演目は、宮入、神楽、曲舞、牡丹、刀、相之山、道引、蝶子、棒、吉野、岡崎、梯子の12種類です。近年、少子高齢化により存続の危機にありましたが、凡そ10年をかけて公平性(地域外からの受入)、ジェンダー(女性の参画)、DX化へ挑戦し、時代に合わせた持続可能な伝統芸能継承に取り組んでいます。

あわ 阿波おどり(徳島県徳島市)



阿波おどりは400年を超える歴史を持つといわれる、徳島が世界に誇る伝統芸能です。本場・徳島市では毎年8月11日から15日までの間、国内外から100万人を超える観光客が訪れるなど、日本有数のイベントとなっています。期間中は街中に軽快な音色(ぞめき囃子)と情感あふれる「よしこの」が響き、踊り子や見物客の身も心も弾みます。自由な民衆娯楽として大きく開花した阿波おどりは、東京・高円寺、埼玉・南越谷をはじめ全国各地に根付いたうえ、度々海外公演も開催されるなど、今や世界的にもその名を知られています。

●令和6年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」受賞施設決定

令和6年12月、地域創造大賞(総務大臣賞)の受賞施設に、以下の5施設を決定しました。

受賞施設の設置主体である地方公共団体、地域における創造的で文化的な環境づくりを目指し施設の運営に尽力されたスタッフの方々、施設を拠点に文化活動等を行う地域住民の皆様、誠におめでとうございます。地域創造では、受賞施設の活動を紹介させていただくことを通じて、全国の公立文化施設のさらなる活性化が図られることを期待しています。

◎令和6年度地域創造大賞(総務大臣賞)表彰式

[日時] 2025年1月17日(金) 14:00～14:50

[会場] グランドアーク半蔵門 華の間

◎令和6年度審査委員会

委員長 吉本光宏(合同会社文化commons研究所 代表・研究統括)

委員長代理 坪池栄子(株式会社文化科学研究所 編集プロデューサー)

委員 河内隆(一般財団法人地域創造 理事長)

委員 小林真理(東京大学大学院人文社会系研究科 教授)

委員 仲道郁代(ピアニスト)

委員 柳沢秀行(公益財団法人大原芸術財団 シニアアドバイザー)

委員 若林朋子(プロジェクト・コーディネーター、立教大学大学院社会デザイン研究科特任教授)

鶴岡市文化会館(荘銀タクト鶴岡) | 山形県鶴岡市

“まちなか文化施設”として地域に活力

市中心にある鶴ヶ岡城址そばに旧文化会館の建て替えにより誕生。市民の集いの場となる開放的な回廊とワインヤード型の大ホールを有し、県庄内南部の中核施設として本格的な鑑賞事業を行うほか、街なかと連携した「タクトのちいさな映画祭」や施設を開放する多彩な催しを実施。アウトリーチや支援の必要な人への鑑賞サポートにも取り組むなど、文化による新たな交流を創出した。

[運営] タクトつるおか共同企業体

[開館] 2018年 [施設概要] 大ホール(固定席1,120席)、小ホール(最大約180席)、練習室、会議室、託児室ほか



鶴岡市文化会館(荘銀タクト鶴岡)内観



タクトのちいさな映画祭(夏と夜とJAZZと)

富山県美術館 | 富山県

“交流型美術館”として新境地

前身の富山県立近代美術館から優れた20世紀美術やデザインのコレクション、教育普及事業を引き継いで新築・移転。賑わいの創出を目指し、遊具のある屋上庭園や気軽に創作できるアトリエなどの無料空間を整備。良質なコレクション展や企画展などに加え、“アート遊び場”として楽しみながら美術に触れる機会を創出し、交流型の新たな美術館のあり方を提示した。

[運営] 富山県/公益財団法人富山県文化振興財団

[開館] 2017年 [施設概要] 展示室(6室)、TADギャラリー、アトリエ、オノマトベの屋上ほか



富山県美術館外観 撮影:小杉善和



デザインコレクション展示 撮影:小杉善和

▼— 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

黒部市美術館 | 富山県黒部市

“地域とつながる美術館”として新境地

人口約39,000人の黒部市にある小さな美術館として、地域全体を展示場として捉える屋外展示や近隣施設と連携したサテライト展示を展開。現代作家が地域をリサーチした独自の展示会やYouTube配信を含む屋外展示作品《infinity～mirage》などにより豊かな地域発見を牽引。子どもたちへの出前授業にも意欲的に取り組み、地域とつながる美術館として新たな道を拓いた。

[運営] 公益財団法人黒部市国際文化センター

[開館] 1994年 [施設概要] 展示室(229.9㎡)、展示コーナーほか



黒部市美術館外観



小学校出前授業「紋きりあそびと日本のデザイン」

岐阜県県民ふれあい会館 サラマンカホール | 岐阜県

“専門性と地域性”の両立を実現

世界的オルガン建造家・辻宏製作によるパイプオルガンを備えた比類のないクラシック音楽専門ホール。一流の音楽家の鑑賞機会を提供するだけでなく、地域の音楽家の起用、子どものためのオペラ、0歳からのコンサート、少年少女合唱団、安価な料金の「フラットシリーズ」、弦楽器貸与事業など、普及・育成事業を意欲的に展開。専門性と地域性の両輪により、音楽文化の振興と普及に貢献した。

[運営] ふれあいファシリティズ [開館] 1994年 [施設概要] コンサートホール(708席)、リハーサル室ほか



岐阜県県民ふれあい会館 サラマンカホール内観



子どものためのオペラ

神戸文化ホール | 神戸市

“文化のホームグラウンド”として尽力

吹奏楽やダンスなど学校や市民の文化活動の拠点となり、全国洋舞コンクールの会場としても親しまれてきた神戸の文化振興のシンボル。演劇・ダンスのプロデュース公演のほか、ホール専属の室内管弦楽団と混声合唱団を有し、定期演奏会、地域コンサート、アウトリーチなどを意欲的に展開。また、国際フルートコンクールにも取り組み、50年の長きにわたり文化による地域づくりに貢献した。

[運営] 公益財団法人神戸市民文化振興財団

[開館] 1973年 [施設概要] 大ホール(2,043席)、中ホール(904席)、リハーサル室、多目的室ほか



神戸文化ホール外観



ガラコンサート(ベネディクトゥス幻想曲)
撮影:小澤秀之

財団からのお知らせ

- 令和5・6年度「公共ホール創造ネットワークモデル事業」
- 実施団体
- 和歌山県公共ホール創造ネットワークモデル事業実行委員会(和歌山県、かつらぎ町、上富田町、串本町、一般財団法人和歌山県文化振興財団)
- アーティスト
- 北島佳奈(ヴァイオリン)
- 上野絵理子(ピアノ)
- セレノグラフィカ(振付家・ダンサー: 隅地菜歩/ダンサー: 阿比留修一)
- コーディネーター
- 岩崎正裕(劇作家・演出家、劇団太陽族代表)
- 岩村原太(舞台照明デザイナー、2年目のみ)
- 問い合わせ
- 芸術環境部 粟林・柴田
- Tel. 03-5573-4055・4064

●「特別寄稿 ビューポイント view point」について

地域創造ホームページ限定で、有識者やキーパーソンから文化芸術および公立文化施設等におけるチャレンジングな取り組みを寄稿していただくコーナー「特別寄稿 ビューポイント view point」。2020年9月からスタートし、これまで17名の方にご寄稿いただいています。

芸術分野のさまざまな領域で活躍する有識者・キーパーソンの方々の取り組みを、ぜひご覧ください。

◎これまでの寄稿一覧

寄稿者 ※敬称略、肩書は掲載時点	掲載日
北川フラム(アートフロントギャラリー 主宰)	2020年9月17日
仲道郁代(ピアニスト)	2020年12月15日
田村緑(ピアニスト)	2021年3月12日
村田真宏(前 豊田市美術館 館長)	2021年4月1日
福井健策(骨董通り法律事務所 For the Arts 代表パートナー)	2021年7月6日
吉澤延隆(箏奏者)	2021年10月12日
田村一行(舞踏家・振付家)	2021年12月20日
平田オリザ(劇作家・演出家・青年団 主宰)	2022年3月28日

吉川由美(文化事業ディレクター・演出家)	2022年11月25日
熊倉純子(東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科教授)	2023年1月31日
小岩秀太郎(公益社団法人全日本郷土芸能協会常務理事、縦系横系合同会社代表、東京鹿踊代表)	2023年3月27日
磯田憲一(安田侃彫刻美術館 アルテピアッツァ美唄 館長)	2023年6月15日
中村政人(アーティスト、東京藝術大学絵画科教授・副学長、東京ビエンナーレ総合ディレクター、3331ディレクター)	2023年9月23日
大野順美(一般社団法人ステージサポート沖縄代表理事、琉球芸能プロデューサー)	2023年12月11日
宮城聡(演出家/SPAC-静岡県舞台芸術センター芸術総監督、静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ館長)	2024年3月28日
漢幸雄(一般社団法人舞藝舎専務理事、あさひサンライズホール館長)	2024年8月21日
隅地菜歩(振付家・ダンサー、セレノグラフィカ代表)	2024年12月10日

●令和5・6年度「公共ホール創造ネットワークモデル事業」終了報告

この事業は、都道府県および市町村等の公共ホールが協働・連携して、クラシック音楽、現代ダンスまたは演劇の複数ジャンルを取り入れた地域交流プログラムと作品制作および公演を実施するものです。

令和5・6年度の和歌山県における事業では、県が主体となって、かつらぎ町、上富田町、串本町の3町が参加して事業を実施し、11月10日に行われた上富田町での公演ですべての事業が終了しました。

アーティストは、同県在住の北島佳奈さん(ヴァイオリン)と上野絵理子さん(ピアノ)、コンテンポラリーダンスのセレノグラフィカ(隅地菜歩さん、阿比留修一さん)です。加えて、コーディネーターとして岩崎正裕さん(劇作家・演出家、劇団太陽族代表)、岩村原太さん(舞台照明デザイナー、2年目のみ)が制作に参加。アーティストとともに県と町の担当者が話し合いながら、1年目には新たなアウトリーチプログラムづくりを行い、各町に

て小学校へのアウトリーチを実施しました。2年目には作品を制作し、県民文化会館および各町の公共ホールで公演を実施しました。

各地域の公演では担当者のアイデアを取り入れ、地域によっては事前のワークショップに参加した児童が舞台に出演するシーンを加えるなど、子どもから大人まで楽しめる舞台となりました。

参加した町の担当者からは「県、県の財団、参加した町の担当者が一つになって進めていくことができ最高の事業になった」、「アーティストのみなさんが一緒に熱く考えてくれたアウトリーチと公演を通して、改めて文化芸術の大切さを感じた」と振り返りがあるなど、横のつながりとともにアーティストとコミュニケーションを取りながら一緒に創作していくことの楽しさや大切さを感じられる事業となりました。

今回の繋がりから今後の和歌山県での事業展開が楽しみです。



上: 小学校でのアウトリーチの様子(上富田町立岩田小学校)/下: バッハ『ヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ 第4番 ハ短調 BWV1017より 第1楽章』

●令和7年度「リージョナルシアター事業」全体研修会報告

令和7年度リージョナルシアター事業の実施予定団体担当者と派遣アーティストが集まり、事業実施に向けてオリエンテーションやディスカッション、企画打ち合わせなどを行う全体研修会を11月18日、19日の2日間にわたって開催しました。

地域の課題やホールの展望などを踏まえながら、住民等を対象にしたワークショップや学校へのアウトリーチ等を行う当事業は、派遣アーティストと実施団体が協働しながら企画し、プログラムを実施していきます。

この研修会には、令和7年度に事業実施予定の6団体から8人の事業参加者が参加し、地域のこと、ホールのやりたいことや課題、演劇の手法を使ったワークショップの効果や可能性などについて、事業参加者と派遣アーティストとの対話を通して共有することを目指しました。

研修会の初日は、派遣アーティストと事業参加者として顔合わせを行った後、本事業で行うワークショップについての理解を深めるため、アドバイザーの岩崎正裕さんと内藤裕敬さんによる演劇の手法を使ったワークショップを体験しました。

岩崎さんのワークショップでは名前の由来で自己紹介をするアイスブレイクを皮切りに、参加者同士がコミュニケーションを取りながら行うワーク、内藤さんのワークショップでは音楽や絵を使ってそれぞれの発想や想像力を共有するワークと、それぞれ異なるアプローチから45分ずつ「演劇を教えない」ワークショップを実施しました。参加した事業参加者からは、「実際に体験できたこと」「ワークショップのイメージをつかめた」「演劇を教えないということに目からウロコだった」「激しく動くものではないライトなワークもあってホッとした」などの感想がありました。



左:岩崎さんによるワークショップ体験/右:内藤さんによるワークショップ体験

続いて行われたディスカッションでは、はじめに内藤さんと津村プロデューサーから「公共ホール概論」と題して、地域における公共ホールをめぐるこれまでの変遷や今後のあり方、拠点として求められるミッションなどについて講義があり、その後、2つのグループに分かれて意見交換を行いました。ワークショップ体験の感想やお互いの地域についての現状、悩みを共有し、解決に近づく方法を探りアイデアを出しあったグループと、過去の事例から事業実施後にホールが向かう先を考え、地域の特性に合わせてアーティストと一緒にできることを探ったグループがあり、それぞれにホールと地域との関わり方について考える機会となりました。

2日目は、事業の進め方などについてのオリエンテーションの後、それぞれのホールのミッションや地域課題を基に、その地域ならではのプログラム実現に向けた話し合いがグループごとに行われました。派遣アーティストと各地域の状況や目的を話し合うことで、プログラムの内容だけでなく、新たな課題や、今後検討していくべきことが徐々に形になっていきました。

企画打ち合わせ後の経過発表では、「実際に派遣アーティストと対話することで、イメージがはっきりしてきた」「人が集まる場所をホールにつくっていけたら」など、事業内容にとどまらない、研修会を終えての変化や意気込みが事業参加者から語られました。

今後、実施予定団体は、来年度の事業実施に向けて地域課題や地域資源のリサーチを行いながら、派遣アーティストと共に企画を練り上げていきます。各地域で行われる来年度の事業にご期待ください。



●令和7年度「リージョナルシアター事業」

◎全体研修会スケジュール

【11月18日(月)】

●14:00～14:15

オリエンテーション①

●14:15～14:45

グループワーク①(顔合わせ)

●14:50～17:00

「演劇ワークショップ体験&レクチャー」
(岩崎正裕、内藤裕敬)

●17:10～19:00

「グループディスカッション」(派遣アーティスト、アドバイザー)

●19:30～ 情報交換会

【11月19日(火)】

●10:00～10:15

オリエンテーション②

●10:15～12:15

グループワーク②(企画打ち合わせ)

●13:15～14:05

参加団体による打ち合わせの経過発表

◎派遣アーティスト

●多田淳之介(演出家、東京デスロック主宰)

●田上豊(劇作家・演出家、田上バル主宰)

●有門正太郎(演出家・俳優、有門正太郎プレゼンツ主宰)

●福田修志(劇作家・演出家、F's Company代表)

●越智良江(劇作家・演出家、演劇ユニットKOKOO主宰)

●志賀亮史(演出家、百景社代表)

●樋口ミユ(劇作家・演出家、Plant M主宰)

◎アドバイザー

●内藤裕敬(劇作家・演出家、南河内万歳一座座長)

●岩崎正裕(劇作家・演出家、劇団太陽族代表)

◎実施予定団体

●岩手県釜石市(釜石市民ホール)

●仙台市(せんだい演劇工房10-BOX)

●東京都国立市(くにたち市民芸術小ホール)

●三重県鈴鹿市(鈴鹿市文化会館)

●大阪府箕面市(箕面市立メイプルホール)

●兵庫県伊丹市(東リ いたみホール)

◎問い合わせ

芸術環境部 藤原・田中

Tel. 03-5573-4124

財団からのお知らせ

●雑誌『地域創造』第50号を発行しました



文化・芸術を通じた地域づくりの事例を紹介する雑誌『地域創造』第50号を発行しました。特集1では、多機能を集約した複合施設や、多世代交流・異分野交流などで人とまちが育まれる交流の拠点を紹介します。特集2では、公立文化施設

や文化芸術を通じて共生共創社会を実現するための課題に向き合っている現場を紹介します。また、1945年に設立された「高崎市民オーケストラ」を前身とし、47年に移動音楽教室をスタートした群馬交響楽団に普及活動や新たな拠点となった高崎芸術劇場との協働について学ぶ体験レッスンも行いました。

◎特集1「文化交流施設」

- ミリカローデン那珂川(福岡県那珂川市)
- 秋田市文化創造館(秋田県秋田市)
- やぶ市民交流広場(YBファブ)(兵庫県養父市)
- 豊橋市まちなか図書館(愛知県豊橋市)

◎特集2「共生共創」

- 横浜市民ギャラリーあざみ野(神奈川県横浜市)

- たんぼぼの家アートセンターHANA(奈良県奈良市)

- とよまPCAMP2024(富山県富山市)

◎空間のエスプリ—国際的事例のビジュアルレポート

- 東大門デザインプラザ/ソウルアップサイクリングプラザ(韓国)

◎体験レッスン—公立文化施設職員・文化政策担当者へのノウハウ伝授

- 群馬交響楽団に地域オーケストラの変革と普及事業を学ぶ(群馬県高崎市)

◎SCOPE—地域の注目事例レポート

- 東温アートヴィレッジセンター(愛媛県東温市)
- 鳥取県文化振興財団プロデュース公演 新作バレエ『赤毛のアン』(鳥取県鳥取市)

◎イラストSCOPE—伝統芸能・古典芸能・祭りなど伝承の取り組みのイラストレポート

- 淡路人形座(兵庫県淡路市)

◎座談会

- アートツーリズムを語り合う

◎海外STUDY

- 欧米における舞台公演の映像配信の現状

◎BOOK

『劇場のグラフィズム アングラ演劇から小劇場ブーム、現代まで』

●地域創造発行物のご案内

文化・芸術を通じた地域づくりの事例を紹介する雑誌『地域創造』のバックナンバーや、地域創造レターで長年にわたって連載してきた制作基礎知識シリーズを中心にまとめたハンドブック『公立ホール・劇場職員のための制作基礎知識 増補版 2021年』などは、地域創造のホームページから入手が可能です。

*入手方法はこちらからご確認ください。 <https://www.jafra.or.jp/library/nyushu/>



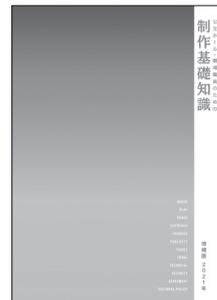
『地域創造』第49号
特集：アート×社会教育/シアターデビュー



『地域創造』第48号
特集：ニューオープン/育成環境を考える



『地域創造』第47号
特集：レジデンス再考/well-being(よりよく生きる)



『公立ホール・劇場職員のための制作基礎知識 増補版 2021年』

●雑誌『地域創造』、地域創造発行物に関する問い合わせ
芸術環境部 和田
Tel. 03-5573-4093

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

地域通信

●地域通信欄掲載情報について
最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

●データの見方
情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック
[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先
ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4093
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 和田・今野

●2025年3月号情報締切
1月20日(月)

●2025年3月号掲載対象情報
2025年3月～5月に開催もしくは募集されるもの

北海道・東北

●札幌市

札幌芸術の森美術館
〒005-0864 札幌市南区芸術の森2-75

Tel. 011-591-0090 橋本柚香
<https://artpark.or.jp/shisetsu/sapporo-art-museum/>

札幌美術展 マイ・ホーム(仮)

暮らしや制度、ルーツ、コミュニティなど、“ホーム”を形づくるさまざまな要素をテーマとした作品を紹介する展覧会。北海道にゆかりのある作家7人の創作を通じて、昨今の社会情勢により揺るぎ始めた“ホーム”のあり方を見つめ直す。会期中は、出品作家の田中マリナと“ホーム”にちなんだ作品を制作するワークショップも開催。

[日程]1月18日～3月9日
[会場]札幌芸術の森美術館



南阿沙美《マニ親子》(2018年)

●青森県弘前市

弘前れんが倉庫美術館
〒036-8188 弘前市吉野町2-1
Tel. 0172-32-8950 佐々木蓉子
<https://www.hirosaki-moca.jp/>

タグチアートコレクション×弘前れんが倉庫美術館 どうやってこの世界に生まれてきたの？

絵画や写真、映像、レクチャー型のパフォーマンスなど多彩な作品を通じて、生きることと幸せについて考える展覧会。タグチアートコレクションと、当館で所蔵する世界各地で活動する作家たちの作品を展示。弘前市出身の奈良美智や、当館の歴史や地域にゆかりのある作家の作品も紹介。また、奈良の創造の原点で

あるロック喫茶「JAIL HOUSE 33 1/3」を再現展示する。
[日程]2024年9月27日～3月9日
[会場]弘前れんが倉庫美術館

●青森県十和田市

十和田市現代美術館
〒034-0082 十和田市西二番町10-9

Tel. 0176-20-1127 外山有菜
<https://towadaartcenter.com/>

谷中佑輔 弔いの選択

ベルリンを拠点に活動してきた谷中佑輔による美術館では初の個展。タイトルの「弔い」には、時とともに怪我や病気、老化、死によって不可避的に失われていく身体の機能に対して、どのようにその喪失と向き合いながら生きていくことができるのかという問いを含め、不確かで不安定な身体について、新作のインスタレーションや彫刻、映像インスタレーション、パフォーマンスを発表する。

[日程]2024年12月7日～3月23日
[会場]十和田市現代美術館

●秋田県秋田市

ミルハスを核としたにぎわい創出実行委員会

〒010-8572 秋田市山王3-1-1 (秋田県庁第二庁舎6F)
Tel. 018-860-1529 松江晴香
<https://akiat.jp/nigiwai/>

WINTER*CLASSICS～響宴～

秋田県と秋田市が共同で整備したあきた芸術劇場ミルハス。秋田市の中心市街地活性化の一環で芸術文化ゾーンの整備が進むなか、ソフト面でもにぎわいの創出を目指し、県芸術文化協会やJR等と実行委員会を立ち上げ、多彩な事業を実施している。今回は、秋田出身の実力派音楽家や秋田青少年オーケストラが一堂に会し、さまざまな楽器編成が楽しめるコンサートを開催。前日には出演者による公

開アウトリーチも行う。
[日程]1月26日
[会場]あきた芸術劇場ミルハス

●山形県酒田市

酒田市美術館
〒998-0055 酒田市飯森山3-17-95

Tel. 0234-31-0095 武内治子
<https://www.sakata-art-museum.jp/>

画家たちのパレットと絵画展 —マティス、ピカソから日本近現代の巨匠まで—

画家たちの創作活動とは切っても切れない関係にあるパレットに注目した展覧会。海外作家から日本近現代の巨匠たちまで、さまざまな個性や遊び心を感じられるパレットを紹介。特に酒田市美術館ゆかりの作家については所蔵作品と併せて展示され、その筆遣いや息遣いについて想像し、楽しめる内容となっている。

[日程]2024年11月30日～1月19日
[会場]酒田市美術館

関東

●茨城県水戸市

水戸市芸術振興財団
〒310-0063 水戸市五軒町1-6-8
Tel. 029-227-8111 井関悠
<https://www.arttowermito.or.jp/>

田村友一郎 ATM

アーティストの田村友一郎を招聘し、水戸芸術館の英語表記「Art Tower Mito」の略称から着想した新作を発表する。創作の過程で綴った膨大なテキストを基に、ショートストーリーを創作する生成AIを搭載したATM型の機械を設置。来場者は自ら選択したアルファベットから生成された物語によって田村の過去作の断片をたどり、現実と虚構を交差させた多層的な物語を構築する田村の作品世界に導かれる。

[日程]2024年11月2日～1月26日
[会場]水戸芸術館

●千葉市

千葉市美術館

〒260-0013 千葉市中央区中央3-10-8

Tel. 043-221-2311 山根佳奈

<https://www.ccma-net.jp/>

ザ・キャビンカンパニー
大絵本美術展(童堂賛歌)

大分県由布市の廃校をアトリエとし、絵本や絵画、立体作品、イラストレーションなど、日々さまざまな作品を生み出している2人組のアーティスト、ザ・キャビンカンパニー(阿部健太郎、吉岡紗希)の結成15年を記念した大規模個展。7つのテーマの部屋で構成された会場では、初期から現在までの膨大な絵本原画の数々に加え、立体造形、映像作品などを一堂に展示する。

[日程]2024年11月16日~1月13日

[会場]千葉市美術館



ザ・キャビンカンパニー展 千葉会場風景

●東京都墨田区

すみだ北斎美術館

〒130-0014 墨田区亀沢2-7-2

Tel. 03-6658-8931 竹村誠

<https://hokusai-museum.jp/>

読み解こう!北斎も描いた江戸のカレンダー

大の月(1カ月が30日間)と小の月(1カ月が29日間)が毎年変動する太陰太陽暦を使用していた江戸時代に大流行した絵暦から、暦文化の一側面を紹介する。版画に描かれた絵の中に隠された数字の隠し方をいくつかのパターンに分類し学びながら、自分で読み解いてみたくなる構成になっており、自由で粋な江戸の遊び心を楽しむことができる。

[日程]2024年12月18日~3月2日

[会場]すみだ北斎美術館

●東京都八王子市

八王子市夢美術館

〒192-0071 八王子市八日町

8-1 ビュータワー八王子2F

Tel. 042-621-6777 川俣高人

<https://www.yumebi.com/>

姉妹都市盟約50周年記念事業
小杉放菴展—小杉放菴記念日光
美術館の所蔵作品を中心に—

明治末から昭和にかけて活躍した日本画家・小杉放菴(1881~1964)の没後60年、日光市と八王子市の姉妹都市盟約50年にちなんで開催される展覧会。画壇では洋画家として知られた放菴だが、本展では日本画家としての側面にスポットを当てる。南画の系譜に、近代的な感覚を取り入れた「新南画」に位置付けられる放菴の魅力が存分に楽しめる。

[日程]2024年11月16日~1月26日

[会場]八王子市夢美術館

北陸・中部

●新潟県見附市

見附市文化ホール アルカディア

〒954-0059 見附市昭和町2-

1-1

Tel. 0258-63-5321 渡部桂子

<https://www2.city.mitsuke.niigata.jp/arcadia/index.html>

家族で楽しむ音楽会 音楽と絵本のコンサート

0歳から入場できる、家族で一緒に楽しむことのできるコンサート。ドイツ民謡『山の音楽家』やチャイコフスキー『花のワルツ』のほか、絵本『ぐりとぐらのえんそく』の朗読も行われ、アルカディアフレンズアンサンブルの演奏とともに絵本の世界を楽しむことができる。今年4月入学の新小学1年生150人を無料招待する。

[日程]3月2日

[会場]見附市文化ホール アルカ

ディア

●富山県高岡市、魚津市

富山県文化振興財団

〒930-0006 富山市新総曲輪

4-18

Tel. 076-432-3115 矢郷清孝

<https://www.bunka-toyama.jp/>

親子で聴く0才からの音楽の時
間♪「ホールでオーケストラ!」

毎年恒例となっている、0才から大人まで親子みんなで参加できるコンサート。今年は東京室内管弦楽団と富山ゆかりの演奏家による総勢50名のスペシャル編成。生の楽器からあふれ出すダイナミックな音の迫力を体感でき、公演時間も60分と、気軽に本格的なオーケストラサウンドを楽しめる。

[日程・会場]1月25日:富山県高岡文化ホール、1月26日:新川文化ホール

●石川県金沢市

金沢21世紀美術館

〒920-8509 金沢市広坂1-2-1

Tel. 076-220-2800

長谷川・池田・本橋

<https://www.kanazawa21.jp/>

すべてのものとダンスを踊って
—共感のエコロジー—

開館20周年記念として、地球が抱える諸処の問題を、人間や動物にいたるすべての生き物とダンスするように乗り越えたいという思いから企画された展覧会。10以上の国・地域の60組のアーティストが鋭敏な感性と観察の下に製作した作品を展示。同じビジョンを共有する研究者とも協働し、専門的な調査結果や理論を視覚化・可感化し、感覚を通した学び(センサリー・ラーニング)として伝える試みも実施される。

[日程]2024年11月2日~3月16日

[会場]金沢21世紀美術館

●山梨県韮崎市

韮崎大村美術館

〒407-0043 韮崎市神山町鍋山1830-1

Tel. 0551-23-7775 若林美帆

<http://nirasakiomura-artmuseum.com/>

旅する絵画

所蔵作品の中から、「旅すること」を通して描かれた作品について、作家の旅の経験や実際の創作活動のエピソードを交えて紹介するコレクション展。作品に描かれている地域によって展示スペースを分ける工夫がされており、鑑賞するごとに、美術館に居ながら実際に旅をしているかのような感覚を楽しめる。

[日程]2024年9月7日~1月26日

[会場]韮崎大村美術館

●山梨県南アルプス市

桃源文化会館

〒400-0222 南アルプス市飯野2971

Tel. 055-284-3411 佐野涼花

<https://shirane-togen.jp/>

桃源文化会館開館40周年記念
事業 南アルプス市民ミュージ
カル『いのちの水と夜叉の神』

開館40周年を記念し、地域にまつわるエピソードを盛り込んだオリジナル市民ミュージカル。各地で市民ミュージカルを手がけてきた南アルプス市出身の齋藤浩樹が、近くを流れる御勅使川をモチーフにした神話を創作。公募で集まった28人は小学生から多世代にわたり初参加の市民も多く、地域文化活動の拡大とコロナ禍でできなかった世代間交流の機会ともなっている。

[日程]1月19日

[会場]桃源文化会館

●岐阜県多治見市

岐阜県現代陶芸美術館

〒507-0801 多治見市東町4-2-5 セラミックパークMINO内

Tel. 0572-28-3100 立花昭

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

<https://www.cpm-gifu.jp/museum/> 人間国宝 加藤孝造 追悼展

岐阜県瑞浪市出身で重要無形文化財「瀬戸黒」の保持者として知られる加藤孝造(1935～2023)の追悼展。18歳で日展入選の快挙を成し遂げた油彩画から試験場時代の作品、独立後の穴窯で焼成した瀬戸黒や志野、さらにこうした制作と並行して書かれた水墨画など約150点の作品によって、多彩な業績の全貌を紹介する。

[日程]2024年11月30日～3月16日
[会場]岐阜県現代陶芸美術館

●静岡県島田市

島田市文化振興課
〒427-8501 島田市中央町1-1
Tel. 0547-36-7966 石間敦子
<https://www.city.shimada.shizuoka.jp/kurashi-docs/834868681.html>

未来の芸術家応援コンサート

島田市にゆかりのある若手アーティストが出演するコンサートと展覧会。島田市芸術文化事業のひとつで、今年度が初開催。出演・出品者は審査を経て選定され、音楽部門の出演者はすでに市内で実施されたアウトリーチ事業へも参加。音楽部門のコンサートは2月2日、絵画や書道などの展示部門は2日にわたって開催される。

[日程]2月1日、2日
[会場]島田市民総合施設プラザおおるり

●愛知県高浜市

高浜市やきもの里かわら美術館・図書館
〒444-1325 高浜市青木町9-6-18
Tel. 0566-52-3366 竹下和貴子
<https://www.takahama-kawara-museum.com/>

美術鑑賞の「さしすせそ」

瓦のほか、屋根の風景に関連した美術作品や、郷土作家を中

心としたコレクションを収集してきた当館。本展は、5つの視点(さ=作品、し=色面、す=スケッチ、せ=線描、そ=想像力)から収蔵品の魅力と豊かな世界観を再発見する試み。絵画や書、写真、彫刻など、時代や技法の枠組み越えた多彩なジャンルの作品約70点を紹介する。

[日程]2024年11月30日～2月9日
[会場]高浜市やきもの里かわら美術館・図書館

近畿

●三重県津市

三重県総合文化センター
〒514-0061 津市一身田上津部田1234
Tel. 059-233-1105 鈴木恵
<https://www.center-mie.or.jp/>

そうぶんの窓アート 開館30周年スペシャル!

2013年から続く、地元ゆかりのアーティストが会館の大きな窓いっぱいイラストを描く人気企画。今回は開館30周年スペシャルとして、これまで窓アートに関わったアーティスト8名が参加し、30周年のテーマ「未来へ」へ込めたイラスト・メッセージを展示。キャンパスにはコロナ禍に使用していたアクリル板を再活用する。

[日程]2024年9月5日～3月23日
[会場]三重県総合文化センター

●京都市

京都市呉竹文化センター
〒612-8085 京都市伏見区京町南7-35-1
Tel. 075-603-2463 藤江・木下
<https://www.kyoto-ongebun.jp/ku-retake/>

地域みんなの狂言鑑賞会

京都市呉竹文化センターの伝統芸能シリーズとして、狂言鑑賞会を開催。今回は室町時代から続く喜劇である狂言を、大蔵流狂言・茂山千五郎家の茂山逸平の

ナビゲートで楽しむ。当日は狂言の紹介と公演とともに、地域の小学生を対象にした所作等の体験プログラムも用意され、実際に狂言の世界にふれることができる。

[日程]1月18日
[会場]京都市呉竹文化センター

●大阪府豊中市

豊中市立文化芸術センター
〒561-0802 豊中市曾根東町3-7-2
Tel. 06-6864-3901 永福・阪井・内田
<https://www.toyonaka-hall.jp/>

とよなかアーツプロジェクト リサーチ企画「千里考今物語」 「落語たぬぎ」～ほんまみたいなうそのはなし～

約60年前に誕生した日本初の大規模ニュータウンである千里ニュータウンとその周辺を舞台に、2023年度よりフィールドワークを行ってきたアーティストの辰巳雄基と彼が率いる「もぐら調査団」がお届けする落語公演。千里ニュータウンを舞台にした創作落語や古典落語のアレンジを、噺家の巧みな話術で楽しむことができる。

[日程]1月11日
[会場]豊中市立伝統芸能館

●神戸市

神戸ファッション美術館
〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中2-9-1
Tel. 078-858-0050 浜田久仁雄
<https://www.fashionmuseum.jp/>

ファッション写真が語るモード —写真とドレスの関係性—

約120年に及ぶファッション写真の歴史に写し出された人物と衣装の変遷と魅力を、美術館のコレクションから厳選した、写真家約90名の230作品で紹介。被写体となったガブリエル・シャネル、クリスチャン・ディオールなど20世紀を代表するデザイナーた

ちの華麗なドレス作品なども併せて展示し、モードと写真の不可分な関係性を再発見することができる。

[日程]2024年11月23日～1月26日
[会場]神戸ファッション美術館



展示風景

●兵庫県丹波篠山市

兵庫陶芸美術館
〒669-2135 丹波篠山市今田町上立杭4
Tel. 079-597-3961 高村恵利
<https://www.mcart.jp/>

TAMBA NOW+ 2025 — 変わらぬ風景、進化するやきもの —

2015年から5年を節目として丹波篠山市域で活躍している作家を紹介する「TAMBA NOW+」の第3弾。800年の歴史を誇る丹波焼の地を中心に活躍する、総勢94名の近作を紹介する。今回は、30代の若手作家の出品が増えたこと、また他地域から移住してきた作家たちの作品も紹介することで、地域の伝統の継承と併せて、新しい風も感じられる内容となっている。

[日程]1月2日～2月28日
[会場]兵庫陶芸美術館

中国・四国

●広島県東広島市

東広島芸術文化ホールくらら
〒739-0015 東広島市西条栄町7-19
Tel. 082-426-5900 西村裕子
<https://kurara-hall.jp/>

くららダンス事業 市民参加型 ダンス公演「みんな de ダンス」

2021年からダンスの種蒔きに取り組む同館が初の市民参加型

ダンス公演を開催する。「親子でダンス」「みんなでダンス」の2プログラムで公募を行い、3歳から70代まで18人の市民ダンサーが参加。ダンスアーティスト・マニシアとジャンベ奏者・DAIとの5回の創作を通じて自分のダンスと出会いながら、アフリカンパーカッションや弦楽器とともにオリジナル作品を披露する。

[日程] 1月26日

[会場] 東広島芸術文化ホールくらら



クリエイションの様子

●広島県呉市

呉市立美術館

〒737-0028 呉市幸町4-9

(入船山公園内)

Tel. 0823-25-2007 渡辺千尋

<https://www.kure-bi.jp/>

いのちを彫る 時を刻む

呉美の彫刻コレクション

呉市立美術館が所蔵する彫刻作品を通じて、その多様な表現を楽しめるコレクション展。ブロンズや木、ステンレスなどさまざまな素材で制作された近現代の作品約50点を通じて、一般に絵画に比べて生み出される過程が見えにくい彫刻の魅力を探る。低融点合金を使用した鋳造体験ワークショップも開催。

[日程] 2024年12月14日～2月11日

[会場] 呉市立美術館

●愛媛県東温市

東温市

〒791-0292 東温市見奈良530-1

Tel. 089-964-4414 安井龍也

<https://www.city.toon.ehime.jp/site/20th/>

東温市誕生20周年記念事業

東温市民ミュージカル

『人と川と祈りと ～重信川伝説』

東温市誕生20周年を記念し、2017年以来7年ぶりの市民ミュージカルを市が坊っちゃん劇場との官民連携で創作。市内を流れる重信川をモチーフに発想したオリジナル作品で、ダブルキャストによる4回公演を予定。前回は出演し、その後プロデビューした山崎玲奈をゲストに迎えるほか、前回の出演者が今回は創作を支えるスタッフとして参加するなど広がりを見せている。

[日程] 1月18日、19日

[会場] Great Sign 坊っちゃん劇場



東温市民ミュージカル『城ノブ～愛媛のマザー・テレサ～』(2017年)

九州・沖縄

●大分県大分市

大分県立美術館

〒870-0036 大分市寿町2-1

Tel. 097-533-4500 柴崎香那

<https://www.opam.jp/>

生誕120周年・没後50年

生野祥雲斎展

大分県別府市出身で、「竹芸」の分野で初めて重要無形文化財保持者に認定された生野祥雲斎(1904～74)。生誕120年・没後50年を記念して、唐物風の初期作から、古典的構成に欄目編を新たな感覚で取り入れた技巧的な作品群、晩年の竹の素朴な美しさや力強さを生かした作品まで、幅広い作風の作品を展示し顕彰する。

[日程] 2024年12月7日～1月23日

[会場] 大分県立美術館

●大分県竹田市

竹田市総合文化ホール グランツたけた

〒878-0024 竹田市玉来1-1

Tel. 0974-63-4837 伊達奈都紀

<https://www.city.taketa.oita.jp/glanz/index.html>

佐藤義美生誕120年記念「みんなのたけた童謡祭～隠れた名作を歌い上げる～」

童謡『いぬのおまわりさん』の作詞で知られる竹田出身の童謡詩人・佐藤義美の生誕120年を記念したコンサート。近年、原稿用紙の状態で見つめられた未発表作品『あおとり メーテルリンク』のほか、曲のついていなかった詩を基に森田花央里が作曲。毎年公募で行う市民合唱企画「グランツ合唱塾」の参加者34人が歌い上げる。

[日程] 1月26日

[会場] 竹田市総合文化ホール グランツたけた

●宮崎県門川町

門川ふるさと文化財団

〒889-0616 東臼杵郡門川町南町6-1

Tel. 0982-63-0002 吉田将大

<https://kadogawa-bunka.net/>

「かどっこ」特別編 短編映画『ぼくらのキャンパス』 演劇『うみのらくがき』

2011年から毎年開催している演劇講座「かどっこ」。今年は宮崎県立芸術劇場と共催で、門川町を題材とした短編映画の制作・上映と舞台の発表公演を組み合わせた“特別編”として開催。キャストや制作陣はかどっこ受講生と町内外からの応募者で構成され、映画監督は助監督の経験もある財団職員が務める。映画の監修には映画監督の本木克英が携わり、作品を通して郷土の姿を伝える。

[日程] 1月25日、26日

[会場] 門川町総合文化会館

●鹿児島県鹿児島市

鹿児島市立美術館

〒892-0853 鹿児島市城山町4-36

Tel. 099-224-3400 小牟禮

<https://www.city.kagoshima.lg.jp/artmuseum/index.html>

開館70周年記念「鹿児島市立美術館と17人の作家たち」

開館70周年を記念し、鹿児島市立美術館の運営に直接関わってきた美術作家たちの作品を一堂に紹介。作家の出生順に作品を紹介することで、作家同士の師弟関係を含めた繋がりや時代の流れがわかると同時に、全作家の作品と顔写真を併せて紹介しており、地域の美術館に貢献した作家たちについて、親しみを感じられる展示となっている。

[日程] 2024年11月14日～1月26日

[会場] 鹿児島市立美術館

●沖縄県那覇市

沖縄県立博物館・美術館

〒900-0006 那覇市おもろまち3-1-1

Tel. 098-941-8200 玉城早苗

<https://okimu.jp/>

『〇でも×でもないもの!』～「ARTと私」正解のない「教育普及」展～

「美術作品をどのように見たらよいか?」という疑問に寄り添えるような工夫を凝らした企画展。「さわる」「きく」「みる」「むきあう」「つたえる」といった5つのテーマの下、自分自身やアートとの向き合い方を深く見つめ直したり、誰かと対話をしながら鑑賞することができる。3歳以下の子どもと親、幼児教育関係者、大人等を対象とした関連催事も用意されている。

[日程] 2024年11月1日～1月13日

[会場] 沖縄県立博物館・美術館

▼— 今月の情報 (アーツセンター編)

新たにオープンした公立のアーツセンターを紹介します

アーツセンター情報

●北海道東神楽町

東神楽町複合施設はなのわ (文化ホール花音)

〒071-1501 上川郡東神楽町
南1条西1-3-2(文化ホール)
Tel. 0166-83-5407
<https://www.town.higashikagura.lg.jp/docs/14084.html>

◎2024年3月11日オープン



老朽化の進む公共施設を集約し、「まちの森」をコンセプトに新たな町のシンボルとなる施設として整備。同町出身の建築家・藤本壮介が設計を担い、庁舎や図書館のほか、新設の文化ホールや診療所などの各機能棟を円形の回廊で繋いだ建築群を樹木で囲むことで、将来的に回廊に沿って新しい機能棟を増築した場合も統一感が出るようにデザイン。正面にはフラワーガーデンを配し「花のまち」なら

ではの景観となっている。文化機能棟には最大450席の花音ホールのほか大小3つの集会室が配置され、楽屋のほかサークル活動にも活用できる。回廊の四方に設置した入り口や各棟の入り口から施設全体へ回遊できるため、遊歩道のように散歩をしながら目的以外の情報にふれることができ、賑わいや交流の相乗効果を生む、気軽に立ち寄りやすい施設を目指す。

[オープニング事業]こけら落とし公演第1弾「和洋折衷コンサート」
[施設概要]文化ホール花音(最大450席)、活動室(11部屋)、バスセンター、診療所ほか
[設置・管理・運営者]東神楽町
[設計者](株)藤本壮介建築設計事務所

●横浜市

横浜市港北区民文化センター ミズキーホール

〒223-0052 横浜市港北区綱島
東1-9-10 新綱島スクエア4・5F
Tel. 045-533-2360
<https://www.mizkie-hall.com/>

◎2024年3月24日オープン



東急新横浜線の綱島駅整備に併せて行われる周辺のまちづくりの一環として、港北区の文化芸術活動の拠点として整備。横浜市では12館目となる区民文化センターで、ホールの愛称は区のキャラクター「ミズキー」にちなんだもの。

約400人を収容でき、区の木や花、鶴見川など地域のシンボルがデザインされた緞帳を有する多目的ホールをはじめ、作品展示やワークショップなどで利用できるギャラリー、小規模な発表会も開催できる音楽ルーム、音楽活動に最適な防音の練習室などの設備を備える。

港北区の文化芸術の活動・発信拠点として、地域に根差した個性ある文化の創造を分かち合い、多種多様なコミュニティを育み、未来へ結ぶ役割を担う。

[オープニング事業]アーツ室内オーケストラ・スペシャルコンサート ほか

[施設概要]多目的ホール(401席)、ギャラリー2室、音楽ルーム、練習室3室 ほか

[設置者]横浜市

[管理・運営者]港北結マネジメント(株式会社)神奈川新聞社・相鉄企業株式会社

[設計者](株)東急設計コンサルタント

●高知県四万十市

四万十市総合文化センター しまんとびあ

〒787-0012 四万十市右山五
月町7-7
Tel. 0880-34-1133
<https://www.city.shimanto.lg.jp/site/shimantopia/>

◎2024年4月29日オープン



老朽化した文化センター・中央公民館・働く婦人の家の3施設を複合化し、まちと人を繋ぐ交流・創造の拠点として中心市街地に整備。

本格的なコンサートが開催可能なワインヤード型のしまんとホールは、囲み型のバルコニー形状を採用し、段状の客席によって生まれる反射音が豊かな響きを生み出している。そのほか、小公演やイベント等市民の日常利用も活発なりぐるホール、リハーサル室、創作スタジオなどを備える。

ホールの中には大きな可動式の壁が設営できるアートのスペースやJA高知も入り、イベント参加者だけでなくさまざまな目的で気軽に出入りできる、賑わい交流の拠点となっている。

[オープニング事業]山崎まさよしスペシャルライブ、しまんとびあ美術展 ほか

[施設概要]しまんとホール(805席)、りぐるホール、リハーサル室、創作スタジオ ほか

[設置者]四万十市

[管理・運営者](株)ケイミックスパブリックビジネス

[設計者]東畑建築事務所・鳥設計共同企業体

●データの見方

情報は所在地の北から順に掲載しています。●で表示してあるのはアーツセンターの所在地です。以下名称、住所、電話番号、公式サイトURLを記載しています。また、基礎データとして、設置者、運営者、ホール席数など施設概要を紹介しています。

●情報提供のお願い

地域創造では、地域の芸術環境づくりを積極的に推進するアーツセンター(ホール、美術館などの施設のほか、ソフトの運営主体も含みます)の情報を収集しています。特に、新規の計画やオープンなどのトピックスについては、この情報欄に掲載していく予定です。このページに掲載を希望する情報がございましたら、情報担当までご連絡ください。

●情報提供先

地域創造レター担当
Fax. 03-5573-4060
Tel. 03-5573-4093
letter@jafra.or.jp

▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

青森県八戸市

八戸市美術館

「風のなかを飛ぶ種子 青森の教育版画」



「風のなかを飛ぶ種子」展示の様子

●風のなかを飛ぶ種子 青森の教育版画
[会期]2024年10月12日～25年1月13日
[主催]八戸市美術館、青森放送

●教育版画運動

版画家・教育者の大田耕士(1909～98)を中心に1951年に東京で設立された「日本教育版画協会」が推進した民間教育運動。大田らは、子どもの人格形成に寄与する教育版画の普及を目指して各地で講習会を行い、教員の実践を機関誌と研究大会で共有し、全国小中学校版画コンクールを開催するなどの活動を展開。全国的な広がりを受け、58年に改訂された国の学習指導要領(61年施行)において版画づくりが小学校全学年に推奨された。その後も各地でユニークな実践が行われたが、大田の死去や学校の美術授業時間の減少により90年代以降は衰退した。

再開館3周年を迎えた八戸市美術館が、子どもたちの手による「教育版画」を展覧する「風のなかを飛ぶ種子 青森の教育版画」展を企画した。教育版画は、戦後民主主義教育を模索する中で版画を通じた「人づくり」として、1950～90年代に全国の小中・養護学校で取り組んだ創作活動だ。今回は同館のコレクションに五所川原市教育委員会の所蔵品や郷土の作家の作品を加えた約260点を紹介。11月4日に本展と専門家を招いた講演会取材した。

●
展覧会は、師範学校教師も務め、青森県の美術教育の礎を築いた版画家の今純三(考現学で知られる今和次郎の弟)の作品を展示した「種」から始まり、今に学んだ教え子たちと彼らが指導した子どもたちの作品が並ぶ「芽吹」、50～70年代に八戸で制作された150点以上の作品が並ぶ「開花」など5章で構成されている。

身近な対象に向き合い、子どもたちが自ら描き・彫り・刷ったという作品は、労働者、漁港の生活、大海の景色、ウミネコなどどれも力強く印象的だった。八戸市の中学校で美術教員を務めた坂本小九郎(1934年生まれ)が指導した作品群を展示した「開花」の章は圧巻で、主題も公害や戦争にまで広がり、陰影に富む細密な白と黒の表現は目を見張るものだった。特に市立湊中学校養護学級の生徒が共同で制作した『虹の上をとぶ船』シリーズは、ペガサスなど空想上の生き物と人間の生活の一コマが共存し、これまでにない物語性のある世界を表現。その内の1点は宮崎駿監督の映画『魔女の宅急便』の劇中画のモデルに用いられた。

青森の版画文化を代表する棟方志功の版画、版画家・教育者の大田耕士が推進した教育版画運動の資料、青森県の教育版画を牽引した人々の相関図なども展示され、最後は、アーティストユニットのTHE COPY TRAVELERSと市内小学生の協働作品で締めくくられていた。

本展を企画した高橋麻衣学芸員は、「大田さんの手元には全国から子どもたちがつくった多くの版画と文集が送られてきて、版画の多くは五所川原市に寄贈されました。展覧会のため

に調査を行い、作品を借用できたことで包括的な展示を実現できました。青森の教育版画が人と人との繋がりの中で育まれた軌跡を伝えたくて、『人』を切り口にしました」と話す。

講演会の講師を務めたのが、町田市立国際版画美術館学芸員の町村悠香だ。同館は2022年に「彫刻刀が刻む戦後日本—2つの民衆版画運動」展を企画し、戦後版画運動と教育版画運動を取り上げて話題となった。

「戦後、日本に本格的に紹介された魯迅による中国の木刻運動が契機となり、2つの民衆版画運動が起こったと考えています。教育版画運動は『生活綴方運動(生活を見つめて文章で表現することで社会や現実を認識する力を鍛える)』の影響を受けて版画を通じた人づくりを目指したもので、技法、技術、芸術性とは異なる価値観の軸があります。青森では今さんによって教育版画が盛んになる土壌が生まれ、坂本さんが生活リアリズムからファンタジーの方向へと飛躍させた。その根底には、就職・進学組に分断され、競わされる子どもたちの状況に抗いたい思いがあったのではないのでしょうか」

八戸市美術館の教育版画コレクション548点は、坂本が旧市美(1986～2017)に寄贈したもので、全コレクション約3,000点の6分の1を占める。2021年の再開館後の大規模展示は本展が初めてとなるが、『虹の上をとぶ船』をモチーフに作曲家の井川丹さんが音楽インスタレーションを市内小中高生と制作して展示するなど、活用してきた。佐藤慎也館長は、「当館はアートを介してさまざまな人が出会い、繋がる場になることを目指しています。教育版画のコレクションはそうした実践がこの地にあったことの証です。今後もその魅力と価値を発信し、現代の子どもたちとリンクしたプロジェクトにも取り組みたい」と期待を寄せていた。

無名性を称賛した民藝運動が注目され、西洋中心の美術史の書き換えが進むなか、地域の中でアノニマスな子どもたちが創り出した教育版画の意義と輝きは、増していくのではないかと。そんな予感を強くした展覧会だった。

(美術ジャーナリスト・永田晶子)